

門真四中だより

「つながる」「わかる」「切り拓く」

令和4(2022)年11月1日

第44号

編集・発行：校長 上甲 尚

1年生「文化発表会」素晴らしい発表でした！



(演劇)

先週の金曜日(10月28日)、1年生は「文化発表会」を行いました。中学校に入って初めての大きな文化的行事。コロナ禍もあり、短い取り組み時間でしたが、コツコツと取り組み、素晴らしい発表会になりました。

1年生はクラス単位ではなく、個々の希望に応じて「演劇」「合奏&合唱」「ダンス」「切り絵」の4つのジャンルに分かれ、クラスを超えて取り組みました。

一生懸命力を合わせて取り組むことの素晴らしさ、少しずつ上達することによって得られる達成感を味わうことができたのではないかと思います。みんな本当によく頑張りました。またひとつ成長することができましたね。この経験をこれからの学校生活につなげていきましょう。当日の進行役を務めてくれた文化委員の皆さん、お疲れ様でした。

《1年「文化発表会」》

*演劇

「桃太郎の息子～日本一優しい鬼退治～」

*合奏&合唱

「彼こそが海賊(「パイレーツオブカリビアンより」)

「Let's search for Tomorrow」

*ダンス

「ブレイクダンス&ヒップホップメドレー」

「TikTok&K-POPメドレー」

*切り絵

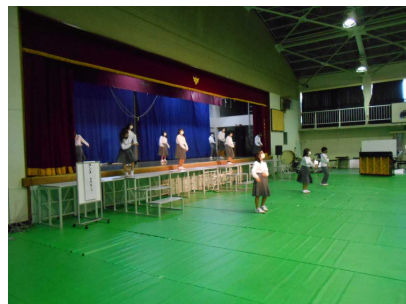
「福を呼ぶ『中国剪定』」

*SDGs発表

平日の午後にもかかわらず、お越しいただいた保護者の皆さま、本当にありがとうございました。当日のお子様の様子はいかがだったでしょうか。今後ともよろしく願いいたします。



(合奏&合唱)



(ダンス)



(切り絵)

樽の中のワイン



山奥のユダヤ人の村に、新しいラビ(ユダヤ教における宗教指導者)が着任することになった。村人たちはラビが着任する日に、祝いの宴を開くことにした。ユダヤ教会堂の中庭に空の樽を用意し、前日までに村人それぞれが一瓶分の酒を樽の中に注ぎ入れておくことにした。

当日までに樽はいっぱいになった。新任のラビが到着すると、村人たちはラビを住まいに案内した。そして、ユダヤ教会堂に案内して、祈りをささげた。その後、祝いの宴となった。

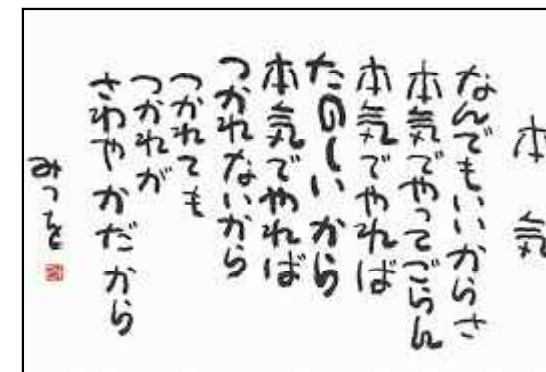
しかし、どうしたことだろう。樽から注いだ液体はまったく酒の味がしない。それはまるで水のようなだった。長老たちは新任のラビの手前、戸惑い、恥じ入った。突き刺すような静寂が立ち込めた。

しばらくして隅にいた貧しい村人が立ち上がってこう言った。「みなさんに告白します。実は、みんなが酒を注ぎ入れるだろうから、わしが一瓶くらい水を入れたって、誰にも分らないだろう。そう思ったんです。」間髪を入れず、別の男が立ち上がった。「実はおれも同じことを...」その後、次々に、「わしもです。」「おれもです」と言いだし、とうとう村人全員が同じことをしていたことがわかった。
(「ものの見方が変わる 座右の寓話」戸田智弘著より)

この話の教訓は「自分一人くらい手を抜いても...」という意識をみんなが持ってしまうと、チーム力は落ちてしまう、組織は崩壊するということだと思います。これを「クラス」「学年」「学校」「クラブ」に置き換えてみてください。

誰かのさぼりや手抜きは、それをカバーする人がいる限りは、なかなか表面化しません。しかし、カバーする人よりも、さぼる人や手抜きをする人が多くなってくると、一気に問題が表面化してきます。今、あなたの「クラス」「学年」「クラブ」はどうでしょうか。そして、あなた自身はどうでしょうか。一度、振り返ってみてください。「いいチーム」「いいクラス(学年)」を作り上げるには一人ひとりが手抜きをしないことが大事だと思います。

先日の「文化発表会」で、皆さんはそのことを身をもって実感したことと思います。「失敗してもいいから一生懸命取り組む」何よりも尊いことだと思います。



「一生懸命だと知恵が出る、中途半端だと愚痴が出る、いい加減だと言いつけが出る」
(武田信玄)

「面白いから一生懸命やるのではない。一生懸命やるから、面白い」
(中谷彰宏)